



王都クレール

西はエルムナード国境から、東は海を挟んでテーベの街までを領土とするクレール王国の王都。かつて世界最強と言われた騎士団の庇護のもと、ガイア地母神教の教えに従い人々が慎ましやかに生活している。主人公イレインが所属するのはこの地方騎士団。最大の国の首都と言うわりに街全体は質素な作りをしており、街中の娯楽なども少ない。人々も必要以上に着飾らない者が多い。これは、「人間は必要最低限の生活を営むことで、自然と調和し自然からの恩恵を受け続けることができる」というガイア地母神教の教えによるものである。逆に人間が欲望のまま奢った生活を続けるならば自然からの罰が下るといふ。南のフランチェスカから来た人々にはえらく不評なこの街だが、クレールの人々はそれでも自分の中に小さな幸せを見つけながらささやかな生活を楽しんでいる。

シャロームの街

クレールの東南端に位置する港町。すぐ北にスピルナ鉱山があるので、地元はもちろん、出稼ぎに来た鉱夫たちも多く住んでいる。名物は近海でとれるシャロームイカ。宿では新鮮なイカ刺しが食べられると大評判。鉱山でとれた鉄を配合したおみやげ品「スピルナクッキー」も貧血気味の女性に大人気。酒場はつねに仕事終わりの鉱夫でにぎわい、スピルナ鉱山の恩恵を受け活気にあふれた港町となっている。南の大陸への船が出るのもこの街だが、便が少ないために人々はいつも待ちぼうけをくっている。

スピルナ鉱山

クレールの財政を潤す貴重な鉱山。産出量は世界最大を誇り、その種類も鉄鉱石をはじめとして銅、アルマイト、銀、金と豊富である。内部は迷うほどに広く、世界中から出稼ぎに来た鉱夫たちが大勢働いている。

ベル族の村

クレールの東にある川を渡った先の村。村、といってもベル族は移動しながら放牧をする民族なので、夏の時期と冬の時期で場所が変わるらしい。馬や牛の飼育に長けているため、彼らの育てる良質な馬や、作るおいしい乳製品などは世界中で有名。クレールの騎士団も彼らから馬を買う。ヨーグルトやチーズは作る数が限られているため本当に貴重で、特にヨーグルトはベル族の伝統製法でしか作られない幻の逸品だといふ。

エルムナード

北大陸の西側、クレールとの国境から西の海までを領土とする。資源豊富で潤うクレールと対照的に、目だつた資源や産業もないこの国は、ひたすら軍事力だけを追い求め戦争をしながら領土を広げてきた。好戦的な女王の独裁により、人々の生活は決していいものとはいえず、ただただ軍からの理不尽な搾取に耐え続けている。軍事力を高めるためにスピルナ鉱山を狙い何年も前から何度もクレールに攻め込んでいたのだが、そのたびに敗北しており、今や鉱山目的というよりも女王が自らの屈辱を晴らすための戦争と化してきている。

キャロル村
南の大陸の西側、最北端に位置する小さな村。なんの変哲もない田舎の村だが、人参が特産で、季節になるとたくさんの人参を大都市フランチェスカに運んでいる。甘みの強い人参をふんだんに利用したお土産品キャロルキャロットケーキはフランチェスカでも美味と評判。
フランチェスカ
南の大陸最大の大都市。大商人が権力を持ち、都市民たちが独自に自治を行う商業自治都市である。大きな港を備え、たくさんの商業施設や歓楽街が立ち並び、通りには多くの商人たちをはじめとするさまざまな人々があふれている。北の大陸との貿易も盛んで、武器防具や生活用品の材料として大量の鉱物をクレールから輸入し、代わりに南大陸の豊富な食料を輸出する。街の治安はあまりいいとはいえず、警備などは傭兵を雇っているが、処理しきれない問題があるときにはクレールの騎士団に依頼するときも。地味で質素な王都クレールとはまるで正反対の華やかな街である。お土産品はカスタードクリームをたっぷり使用したフランチェスカパイ。ちなみに、フランチェスカというのは街を牛耳っている大商人の亡き妻の名前らしい。
モイモイ村
南の大陸から海を挟んですぐ西の島にあるさびれた村。さびれてはいるが、芋が名産でさかんに栽培されている。南の大陸との連絡は、年一回イモを運びに来る船のみで、それ以外はほとんど誰もくることがない。この芋を使ったモイモイモというスイートポテトが土産品であるらしいが、店がないので買うこともできない。なぜか村民はほぼ男だけであり、メイサという若い女性がひとりだけいる。村の北には迷ったら生きては帰れないという深いジャングルが広がっている。
アマゾネスの村
モイモイ村の北にあるジャングルの中に存在する女たちだけの村。外とのつながりを絶ち、完全に自給自足なこの村は男性に酷い目にあわされた女性たちの駆け込み寺ともなっているらしい。武芸に秀でた女性も多く、村の警備にはぬかりがない。男子禁制であり、男は見つかり次第即殺される恐ろしい場所。彼女たちアマゾネスは薬作りが得意で、彼女らの作る薬の中には傷をたちまちにして癒す特效薬というものがあるという。
アド村
砂漠のオアシスの周囲にできた小さな集落。昼間暑く、夜間寒いという気候から、人々は独特の服装をしている。ノルテ大橋ができたために都会にあこがれて村を出て行く者も多く、過疎化が問題になりつつある。ナツメヤシの実を干して砂糖漬けにした保存食品「ナツメヤシの砂糖漬け」は、村人の滋養食であると同時に砂漠を旅する旅人たちの必需品である。
ネド砂漠
アド村の北に位置する広大な砂漠。どこまでも砂ばかりの同じ風景が続くため迷いやすく、灼熱地獄のなかで方向感覚を失いさまよった挙句力尽きる旅人も少なくない。さらに強力なモンスターが多数出没する地域でもあり、越えるのは至難の業である。
古代魔族の街
ネド砂漠のどこかに存在するといわれる遺跡。かつて古代人魔戦争に敗れ、人間たちに追われた魔族が隠れ住んでいた場所だというのが、噂ばかりで探し当てた者はいない。
テーベ
赤道直下の漁業が盛んな港町。主人公の出身地。ネド砂漠に近いから、他の地域と違いモンスターに襲われる頻度が非常に高いが、クレール領の最東端ということもあって騎士団の目が届きにくい場所でもある。ベティーという香り豊かなお茶の栽培がさかんで、クレールを経由して世界に輸出されている。
ロマナ
西大陸にあるワインの名産地。もともとは小さな田舎町だったのだが、果物の栽培に適した気候を利用してワイン作りに着手、ワインローマーナと称して売り出した果実酒があちこちで評判となり、今や世界最大のワイン名産地となった。ベル族の村が比較的近いことも利用してチーズやバターなどの保存食品を仕入れ、ワインとともに提供したり、ワインを利用した食品や観光などにも力を入れ、ますます活気にあふれるにぎやかな街である。街の南にはロマナ湖という美しい湖があり、こちらも観光の名所だったのだが、モンスターの増加に伴い訪れるものは少なくなっている。

ウェスタ

北大陸と南大陸の間の中央大海にぼつりと存在する小さな町。海に浮かぶ美しい景観の街としても有名なこの町は、世界中から知識人や学者が集まる一種の研究都市でもある。この街にある古代図書館には世界のあらゆる書物が大切に保管されているばかりでなく、学校も併設されており、毎日研究者たちが議論を繰り広げたり、弟子たちに講義を行ったりと、学習に最適な設備が整っている。

スノウ村

北大陸よりさらに北にある小さな島の小さな集落。一年の殆どを雪に閉ざされた寒さの厳しい場所だが、それでもここの人々は寒さに耐え、時にはそれをうまく利用し、力強く生きている。この雪の村ならではの、雪の結晶の形をした透明な飴細工クォーツキャンディは子供たちに大人気のお菓子である。

辺境の村

温泉で有名な名前のない村。南大陸のすぐ東南、火山の島にある。地熱で暖められた温泉水は湧出量が多く、源泉掛け流しの貴重な温泉につかろうと世界から人々が集まってくる。温泉宿では山菜や宿の畑でとれた野菜で料理が出され、こちらもまた美味と観光客に人気である。村の北にはマグマのわきたつ地下洞窟があるというが、強力なモンスターも多数出没するため近寄る者はいない。